

## 今後の小学校給食の提供方式の方針について

標記の件につきまして、別紙のとおり決定いたしましたので、報告いたします。  
なお、この間の経過については、下記のとおりです。

### 記

- 1 . 宇治市小学校給食における提供のあり方検討委員会
  - ・ 第1回 令和4年6月24日(金)
  - ・ 第2回 令和4年7月1日(金)
  - ・ 第3回 令和4年7月15日(金)
  
- 2 . 検討委員会からの意見書提出  
令和4年7月20日(水)
  
- 3 . 教育委員会会議
  - ・ 宇治市小学校給食の提供方式に関する意見について(報告)  
令和4年7月21日(木)
  - ・ 今後の小学校給食の提供方式の方針について  
令和4年8月8日(月)

令和4年8月8日

## 今後の小学校給食の提供方式の方針について

宇治市教育委員会

### (1) はじめに

小・中学校の児童生徒は心身の成長が最も著しく、大人になる体の基礎をつくる大切な時期であり、学校給食は、児童生徒が発達段階に応じて必要な栄養をバランス良く取ることができるよう、毎日の献立を作成するとともに、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を担う「生きた教材」と考えており、教科や様々な活動の中で「食育」を計画的に実施することで、食に対する理解・関心を高めているところです。

この間、中学校給食を実施するに当たり、給食センター方式での提供を行うため、現在、約6,000食規模の給食センターの整備を進めているところです。

一方、本市の小学校は、自校調理方式で給食を提供しているところですが、今後、市内の児童生徒数の減少傾向が続くと見込まれること、各小学校の給食室の老朽化が進んでおりその施設整備には多額の費用と時間を要することなどの状況を踏まえるとともに給食センターの有効活用並びに食育の重要性も含め、今後の本市の小学校給食における提供のあり方について「宇治市小学校給食における提供のあり方検討委員会」においてご議論いただき、この度、意見書をいただいたところです。この意見書を踏まえ、宇治市教育委員会として、今後の小学校給食における提供方式について方針を定めるものです。

### (2) 小学校給食における提供のあり方検討委員会意見書について

- ・自校方式は、児童の身近で調理するというメリットがあり、可能な限り継続してください。
- ・今回、整備する給食センターの規模は約6,000食であり、小中学校分すべてをただちに賄うことは困難ですが、今後児童生徒数の減少が見込まれることから、給食センターの有効活用を図ることも大切です。
- ・小学校給食に給食センター方式を取り入れる場合は、該当校の保護者等の不安を軽減するため丁寧に説明するとともに、食育指導やアレルギー対応等のため、栄養担当職員を配置し、細かな指導ができるように配慮してください。
- ・給食センターは、試食会・調理実習などセンターを利用した食育やICT技術を活用した学校と連携した食育など、児童生徒のみならず、保護者等も対象と

した食育の拠点施設として整備されることを望みます。

- ・献立については、ドライシステムのセンター方式及びドライシステム導入校と、ドライ運用校の間でそれぞれの利点を生かしたメニューとなるよう努めてください。
- ・自校方式・給食センター方式等の提供方式に関わらず、ドライシステムをはじめとした衛生管理レベルの向上に努めてください。

### (3) 宇治市における今後の小学校給食の提供について

今後の小学校給食については、自校調理方式を基本としながらも、将来的な児童生徒数推移、小学校給食室の老朽化状況等を総合的に勘案し、給食センターからの配送方式を導入することとします。

### (4) 対応について

#### 給食センターの活用について

- ・今後の児童生徒数の推移等に合わせて、給食センターの調理機能を勘案して、原則、給食センターからの配送とします。
- ・学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の改築時等には、給食センターの調理機能を勘案して、原則、給食センターからの配送とします。
- ・新たに、給食センターから配送する方式に移行する小学校には、該当校の保護者等の不安を軽減するため丁寧に説明するとともに、食育指導やアレルギー対応のため、栄養担当職員の配置に努めます。
- ・給食センターは、試食会・調理実習などセンターを利用した食育やICTを活用した学校と連携した食育など、児童生徒のみならず保護者等も対象とし、給食を活用した食育を推進する拠点施設として整備します。

#### 自校方式について

- ・自校方式の給食室は可能な限り継続するため、必要に応じて改修を行います。

#### その他

- ・自校方式・給食センター方式等の提供方式に関わらず、ドライシステムをはじめとした衛生管理レベルの向上、献立の充実に努めます。

令和4年7月20日

宇治市教育委員会教育長 岸本 文子 様

宇治市小学校給食における提供のあり方検討委員会  
委員長 坂本 裕子

### 宇治市小学校給食の提供方式に関する意見

宇治市小学校給食の提供方式に関する方針について検討し、意見としてとりまとめました。

宇治市中学校の給食は、令和8年度を目途に給食センター方式で提供される予定とされております。今後、児童生徒数の減少が見込まれているとともに、小学校給食室の老朽化対応が必要であるため、新たに整備する給食センターの活用を議論しました。

市教育委員会におかれましては、本意見を参考にしたうえで、子どもの成長を促す栄養の適切な摂取だけでなく、食の大切さを学び、健全な食生活と望ましい食習慣を養うため食育についてさらなる充実を図り、学校給食をより良いものとするよう、期待いたします。

#### (意見)

- ・ 自校方式は、児童の身近で調理するというメリットがあり、可能な限り継続してください。
- ・ 今回、整備する給食センターの規模は約6,000食であり、小中学校分すべてをただちに賄うことは困難ですが、今後児童生徒数の減少が見込まれることから、給食センターの活用を図ることも大切です。
- ・ 小学校給食に給食センター方式を取り入れる場合は、該当校の保護者等の不安を軽減するため丁寧に説明するとともに、食育指導やアレルギー対応等のため、細かな指導ができるように、栄養担当職員を配置してください。
- ・ 給食センターは、試食会・調理実習などセンターを利用した食育やICT技術を活用した学校と連携した食育など、児童生徒のみならず、保護者等も対象とした食育の拠点施設として整備されることを望みます。
- ・ 献立については、ドライシステムのセンター方式及びドライシステム導入校と、ドライ運用校の間でそれぞれの利点を活かしたメニューとなるよう努めてください。
- ・ 自校方式・給食センター方式等の提供方式に関わらず、ドライシステムをはじめとした衛生管理レベルの向上に努めてください。